

課題No.１

次代を担うきゅうり生産者のステップアップによる生産性向上

対　　象：JAみやぎ登米胡瓜部会青年部（31人）

計画期間：令和8年度～令和10年度

チーム員：◎正井佑、板橋慎幸、伊藤尚美、田中正義、佐藤優衣

課題の背景

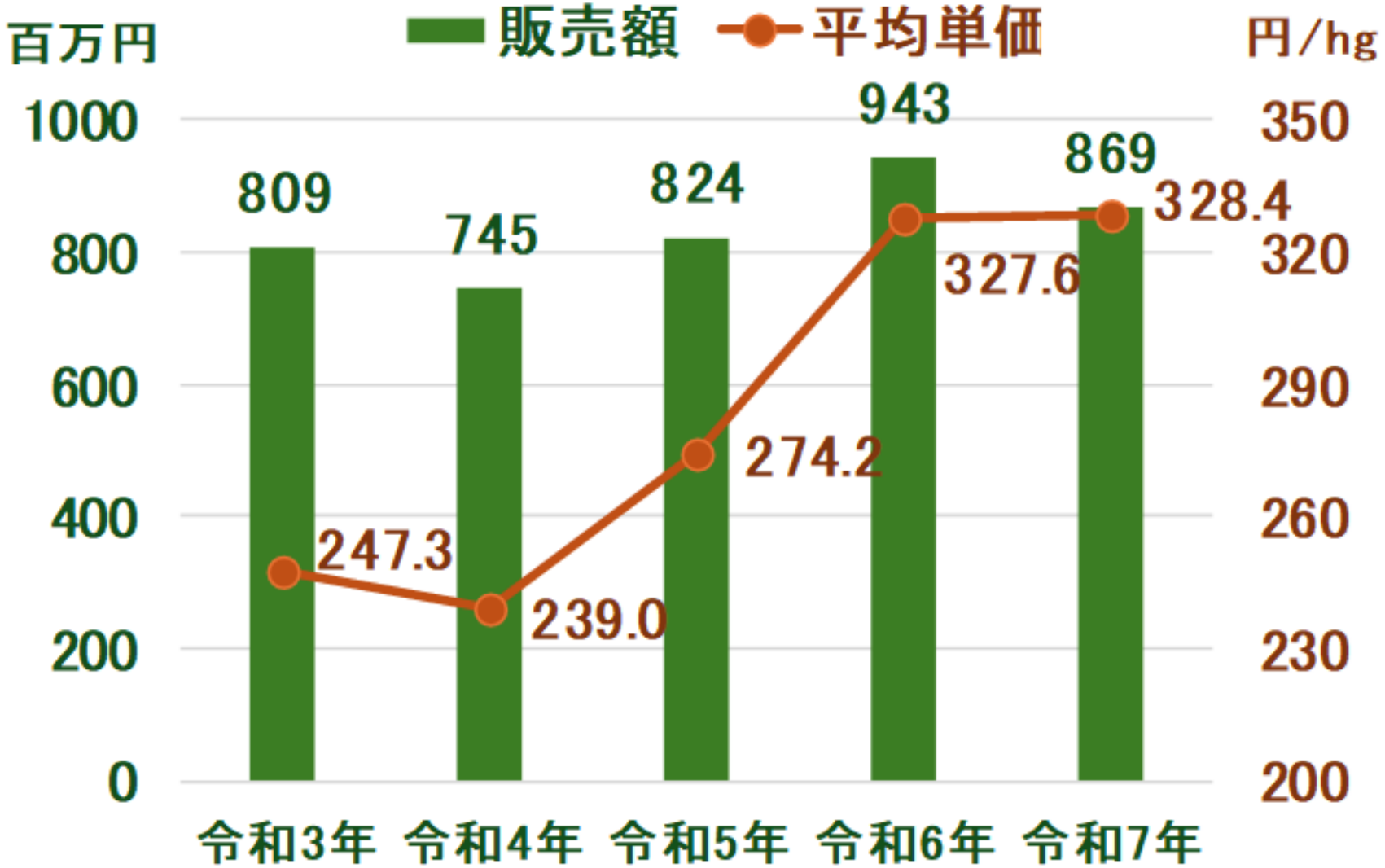
- 高温による収量の落ち込み
→R5以前は胡瓜部会全体で3,000t↑、R6は2,877t、R7は2,647t

- 令和7年の販売額8.7億円→**令和10年の販売額10億円**の目標設定
（JAみやぎ登米「営農経済事業活性化プログラム」より）

- **青年部が部会全体の販売額の半分**を占めている
→栽培技術のバラつき、環境制御技術の未普及、新規生産者への支援不足…の問題がある

- **課題：若手（≒青年部）の平均収量（15.7t/10a）の底上げ**

参考：胡瓜部会の販売額と平均単価の推移



・高温による他産地の不作
→R6~7の平均単価上昇
※販売額の増加は外的要因、収量自体は大きく減少
↓
・~R5の収量（3,000t↑）を目指せれば、販売額10億円は達成可能

令和８年度 成果指標・活動指標

【成果指標】

- 定量的目標：**栽培技術における課題が共有され、次作の改善に向けた取組が図られる**
- 定性的目標：**10a当たり収量 R8 16t→ R9 16.5t→ R10 17.3t**

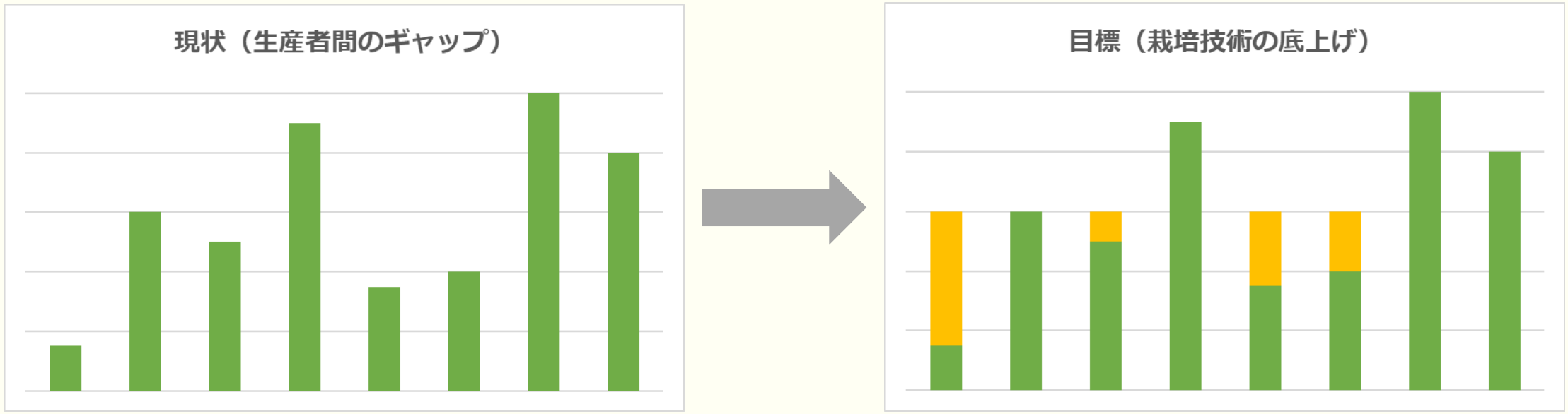
【活動指標】

①栽培基礎技術習得支援（52日/年）

②環境制御技術取組推進（20日/年）

③部会活性化支援（16日/年）

①-1栽培基礎技術習得支援



・潅水や施肥・防除などの**基本技術に大きな個人差**

↓

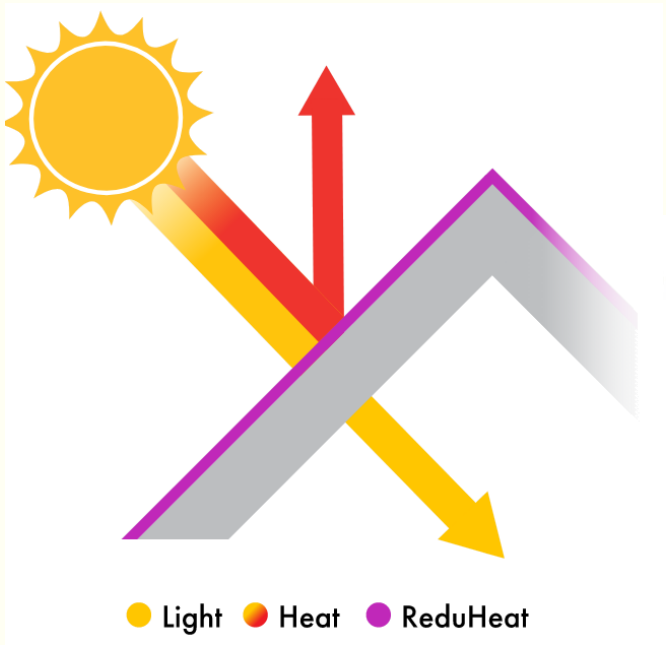
・収量の低い部会員を重点的に指導・巡回し、技術を底上げ

・**部会員全体で安定した高収量**をあげられる基盤を構築する

①-2 高温対策の実証試験

環境と高温に適応した施設園芸展開事業（園芸推進課）

【高温対策資材の普及拡大】
近年の夏場の高温対策として、遮熱剤等の効果的な資材の導入を推進







・**遮熱剤（塗布剤）の効果検証**（対象2名で実証試験）

②環境制御技術の普及拡大





経験+「データ」による栽培管理

・モニタリング装置や低コスト技術等、取組みやすい技術の活用を推進

↓

・中小規模（パイプハウス等）の部会員でも活用しやすい技術（CO_2施用機、自動換気装置等）の普及拡大を図る

・品質向上・収量の安定化

③部会活性化支援

・苗生産会社、協同選果場など、**きゅうり栽培に有利な環境**有

・「儲ける農業」の見える化：作型別の経営指標共有

→新規生産者（親元就農、他品目からの転換）の掘り起こし

→栽培面積拡大や部会の活性化につなげる

若手が意欲を持って取り組める
「持続可能なきゅうり産地」の実現を目指す

活動の所見①-1 栽培基礎技術習得支援

• 栽培講習会・現地検討会で基礎技術を指導
→部会員間で害虫の防除、水管理等の「**基本技術**」**に差がある**
→技術改善の余地がある部会員へ向けた重点的な指導が必要

活動の所見①-2 高温対策の実証試験

• 生産者ほ場に遮熱剤を塗布、実証試験中（～9月）
→体感で涼しさを感じられ、**慣行区と3~4℃程度の温度差**
→導入コストは割高、他資材や施工方法の再検討が必須

活動の所見② 環境制御技術の普及拡大

• R8、一部の部会員らがミスト装置やモニタリング装置を導入
→資材価格の高騰で、**大規模な設備導入のハードルは非常に高い**
→**既存ハウスでも導入可能な技術**の検討、環境測定勉強会開催等

活動の所見③ 部会活性化支援

• JAと、今後の取組方針について協議
→規模別単収、経費所得、労働時間等の**経営指標をデータ化**
→**新規栽培者がイメージできる作型別指標**をJA、部会で検討

対象からの意見及び評価

- 講習会対応等により部会員に指導が行き届いておりありがたい。
→農薬・資材・技術の新情報提供を積極的にお願いしたい。

- 遮熱剤の効果が気になる。効果検証が有益であることを期待する。
→高価すぎるため、誰でも活用しやすい方法を検討してほしい。

- 資材価格の高騰で、新規就農者が大変な環境になっている。
→施設園芸の補助金等支援策を情報提供してほしい。

（JAみやぎ登米胡瓜部会青年部員）